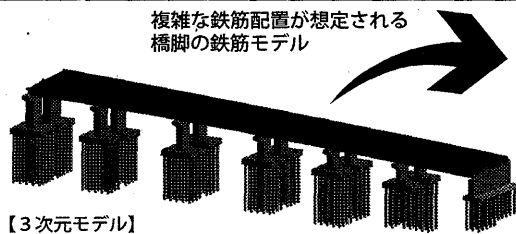
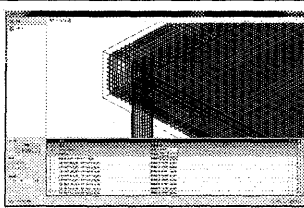


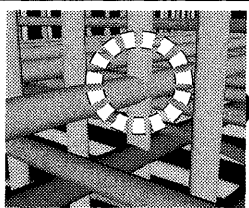
橋梁下部工でのCIM活用のイメージ。作成した3次元モデルで鉄筋干渉のチェック、数量の自動算出を行い業務の効率化やミスの削減を図る。



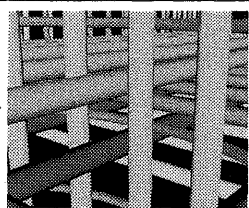
【3次元モデル】



【自動干渉確認画面】



【鉄筋干渉チェック(当初)】



【鉄筋干渉チェック(修正後)】

八千代エンジニアリング

八千代エンジニアリングが、業務の効率アップや品質向上を目的にCIM（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）の活用に向けた取り組みを加速している。7月の機構改革で技術推進本部に設置したCIM推進室が先導役となり、道路・鉄道や社会計画など社内各グループでCIMによる3次元設計に対応できる体制整備や人材育成に注力。出水重光専務総務兼事業本部兼兼技術統括部門長は「CIMのポテンシャルは大きく、他社に対する差別化の武器になり得る」としており、定着に向けた動きをより強める考えだ。

同社は、2000年代に入ってから3次元設計の研究や技術開発を開始。オートデスク製のソフトを導入して社内でも対象物を立体的に捉える能力を備えられるよう「中、昨年度から取り組みを加速。国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所が発注した高速道路の橋梁詳細設計業務を受託し、CIMを試行するなど実務面でも徐々に実績を上げつつある。

技術推進本部の藤澤泰

CIM活用取り組み加速 スキル向上へ勉強会

雄情報技術部長によると、CIMの活用は「計画・設計段階での施工手順の検討、ダムなど巨大構造物の仮設計画検討などに役立つ」とみている。費用と工期の短縮にCIMを利用することも可能だとしている。CIM推進室は、社内にも積極的に対応。社内

【建設ICT】

- | | | | |
|---------|--------|--------|-------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 | 4. 日経 |
| 4. 読売 | 5. 朝日 | 6. 毎日 | 5. 日経 |
| 7. 産経 | 8. 朝日 | 9. 毎日 | 6. 日経 |
| 10. 中部経 | 11. 朝日 | 12. 毎日 | 7. 日経 |
| 13. 建設通 | 13. 朝日 | 14. 毎日 | 8. 日経 |
| 14. 建設工 | 14. 朝日 | 15. 毎日 | 9. 日経 |

平成25年 11月20日(朝)・夕 P 3

「可能性がある」(出水専務)と指摘。今後の普及拡大をにらみながら、体制とスキルの両面でCIMに対応できる環境を整えていく。